

令和2年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和3年3月19日
市立札幌大通高等学校

本校の重点目標

- (1) 自己を高め、目標に向かって、自己実現を図ることができる生徒を育てる。
- (2) 意欲・熱意を持って主体的に学習し、興味・関心を深く探究する生徒を育てる。
- (3) 主体的に自己の生き方や進路について探究し、様々な困難を乗り越える逞しい生徒を育てる。
- (4) 規範意識を身につけ、勤労を尊ぶ、有為な社会人として自立していける生徒を育てる。
- (5) 多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる。

本校の経営方針

教職員は情熱を持ち、信頼される教育者としての使命を自覚し、各種研鑽に努めるとともに、次のことを考慮した経営体制を整える。

- (1) ガイダンス機能を充実させ、HR複数担任制や小グループ担任制をとる。
- (2) スクールカウンセラーの配置と各種相談体制を整える。
- (3) インターンシップ等を積極的に導入する。
- (4) 学校行事・部活動等は、三部合同を基本とし、共通の活動時間を確保する。
- (5) 教育関連施設や家庭・地域等と連携し、双方向の協力体制を確立する。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・大通高校に入学する前と比べて、安心して学校生活を送ることができている。 ・高校入学前と比べて、友人関係の広がりや活動の変化、人間的な成長を感じる。 	A	<p>「安心して学校生活を送ることができている」の回答は生徒82%、保護者90%であった。逆に生徒の18%が学校生活への安心感が満たされていないと読み取れる。</p> <p>「生徒の人間的な成長を感じる」教職員が85%であるが、生徒への個別面談の方法や、不安や悩みを抱えた生徒への寄り添いなどにおいて、より安心感を高める方策を検討し、家庭や校外機関と連携した支援の在り方について、次年度への取組に引き継いでいきたい。</p>	A	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大通高校の大きな役割である「安心して学べる学校（場）」として、維持していただければと思います。 ・コロナ禍の影響があったかもしれませんが、保護者の90%と高評価は改めて学校という居場所、相談先が重視されているのかもしれません。 ・安心した学校生活が送れることができていると多くの生徒、保護者が返答している点は評価できません。改善方向で述べられていますが不安や悩みを抱える生徒にどのように寄り添うことができるのか。教職員だけの関りだけでは当然限界があります。多様な問題に対して生徒へのアプローチは勿論、家族に対してのアプローチが必要なケースが多いのではと推測致します。開校以来、校外関係者（地域）が支援者として関わる土壌がありますから、多職種連携による具体的な支援が形になるようになればと考えます。 				
学習	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、授業に出るのが楽しみで、わかり易い授業が多く、授業内容を理解している。 	B	<p>「わかりやすい授業が多い」の生徒の回答が78%であるが、「多くの生徒が授業内容を理解している」の教職員の回答が63%と昨年同様に生徒と教職員の認識に違いがみられる。また、「授業に出るのが楽しみ」という科目がある」の生徒の回答が72%、「授業に出るのを楽しみにしている生徒が多い」の教職員の回答が55%と生徒と教職員の認識の違いが大きい。</p> <p>保護者の学習に関するニーズも「学び直し」から「高い学力」まで分散している傾向がみられる。</p> <p>基礎基本の定着を目指しながら、生徒の学習ニーズに対応した授業改善、学習評価の改善に向けての取組を一層深めていきたい。</p>	A	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度はコロナ禍もあり、なかなか授業が実施できなくてご苦労があったかと思えます。保護者の要望もあるかもしれませんが、まずは安心して学べるのが大切だと思います。 ・生徒の実態（学力）やニーズのばらつきが大きい中で、指導力などの専門性が求められるので、教職員の努力は他校に比べて大変だと思います。学校ぐるみの研修の機会や時間など環境整備が大切だと感じました。 ・大通高校にとっての「高い学力」の意味合いを先生方の中で議論したうえで取り組んでもらいたい。 ・大通高校での学習においてわかり易いを評価するのはニーズが広すぎることもあり少し難しいという印象があります。ただ、授業を楽しみにしている科目があることが多いのは評価されることだと思います。学習ニーズの広く分散する傾向はこれからも続くことを考えた改善方法も今後も策が必要になると考えます。 				

<p>キャリア ・ 進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が色々な社会体験（ボランティア、職場体験等）をする機会を増やし、仕事や社会の仕組みについて学ぶ機会が多い。 「総合的な探究の時間」「キャリア探究」など、本校のキャリア教育の内容を理解している。 授業や学校行事で聞いた、進路についての話を参考にしている。 	<p>B</p>	<p>「総合的な探究の時間」や「キャリア探究」等の学校設定科目を設置し、生徒のキャリア形成に資する取組をしているが、学校設定科目の積極的な履修は一部の生徒に限定されている。</p> <p>本校のキャリア教育の内容と効果的な取組について、生徒のキャリア形成の視点から、生徒の意識づけについて、さらに高める方策を検討していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナにより、十分な進路指導ができなかった部分も沢山あったかと思いますが、このまましっかりと「キャリア探究」を見据えて指導、機会を作っていたいただきたいです。 職に就くことはもちろん、生きていく、生活していく面から、自分らしい進路をしっかりと考え、自分と向き合っていく、社会と関わっていく資質を高めていく工夫を今後も探っていたきたい。 社会体験はこれからの自分と向き合うために有効であり、保護者としては進路を考える切っ掛けとして機能してくれたと感じています。興味のある分野を深めてあげるのが保護者の役割だと思いますが、しっかりと教職員のみなさんが繋げて頂いたおかげであると感じています。職場体験では感染症の関係で受け入れ先の問題が出ていると聞きましたが、体験をして学ぶきっかけとなる機会を多くの生徒が体験できることが社会的な存在としての自己と向き合うことに繋がりますので、ぜひ継続できればと考えます。 				
<p>多様な 支援 と 外部連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校で気軽に先生方と関わる事ができる。また、スクールカウンセラーなど、外部の人たちと接する機会が多い。 保護者や外部の人々が、学校運営に参加する仕組みがある。 さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対する、サポート体制がある。また、教員間で、情報交換がおこなわれている。 	<p>B</p>	<p>例年はドリープレイスや外部講師を招いての多くの取組を行っているが、コロナ禍の影響から実施の制約が大きく、その分が数値評価に反映されたものと分析している。</p> <p>また、「学校で気軽に先生と関わる事ができる」の生徒の回答が70%であり、30%の生徒ができないと回答している。引き続き生徒への個別面談等のガイダンスの対応など検討していきたい。</p> <p>「保護者や外部の人たちが学校の運営に参加する仕組みがある」の保護者の回答が73%と昨年比10%増となっている。</p> <p>本校での取組について、引き続き積極的に発信していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部との連携もコロナで制限が多かったと思いますが、次年度以降はウイズコロナの中で、新しいスタイルの検討が必要かもしれません。また、大通高校がその最先端を行ってほしいです。 多様な人、仕組、連携の「アピール→実感→成果」といった、大通高校ならではの取組を今後も継続していただきたい。 本校は他校より多様な支援を受け入れており、サポート体制は充実しているとは思いますが、情報共有、交換ができていくかは評価が分かれる部分なのかなと思います。生徒の抱えている問題で誰がコーディネートするのはケースにより違うでしょうから、教職員だけではなく外部連携先からの発信でケースカンファレンスみたいな検討会議ができる（時間をかける訳ではない）と教職員の対応の負担軽減にもつながるのではないのでしょうか。また、外部連携の職種の中に生徒が置かれている環境からのアプローチを行うSSWの参加も検討して頂けるとよいのではと考えます。 				
<p>生徒指導 ・ 特別教育 活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生以外のスタッフ（カウンセラーやボランティア等）と関わる機会を多く持っている。さらに充実させる。 困った時や悩み事があるときに、相談できる大人がいる。 生徒の人間的な成長を感じる。 	<p>B</p>	<p>「自分の周りには、困ったことや悩み事があるときに相談できる大人がいる」と思わないの生徒の回答が45%と昨年比6%増えている。教育相談が生徒の安心感を高めるための策を立てながら実践していきたい。</p> <p>生徒の学校生活に対する保護者の回答で「のびのびと自由な学校生活」93%、「マナーや礼儀を身につけさせる機会」95%となっている。本校に入学した生徒の人間的な成長につなげられるよう、学習活動や特別活動、キャリア教育等の場面でその視点を一層取り入れた教育活動を行っていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年はコロナで人と接する機会が限定され、ご苦労があったかと思いますが。 必要な人と必要な支援を届けたいと学校は努力していると思う。コロナ禍にあって、特に重要度が高いのではないだろうか。 コロナ禍において「測定不能」な部分もあるので単純に前年度と比較はできない。 相談できる大人がいると思わない生徒が増えているのが気になりますが、概ね達成できていると思っています。大人とつながるきっかけは増えていると思いますが、具体的に繋がるとなると何か障害になるのでしょうか。その部分は今後、詳細検証の上評価が必要でしょうか。 				
<p>大通高校として評価を受けて今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価Aとしている項目については、来年度も引き続き実践を継続しながら、「必要な生徒が、必要な時に、必要な支援」に対応できるよう、学校生活の安心感を高めるための支援の取組を検討し実践していきたいと考えている。 「学習」「多様な支援と外部連携」「生徒指導・特別教育活動」の自己評価をBとしたが、生徒・保護者・教職員の受止め方に違いも見られることから、その内容を整理し、充実感を連携できる取組を検討し、次年度に向けての教育活動の構築に取り組んでいきたい。 評価者の方から「次年度以降はウイズコロナの中で、大通高校のオリジナリティで積極的に活動していただければ」と課題検討の方向性について指摘をいただいた。令和2年度において、コロナ禍の影響がありながらも、出来る限り通常に近い学校教育活動に工夫をしながら取り組んできた。その中で得られた工夫や改善点を次年度以降も生かし、ウイズコロナの中での一層の学校教育活動の推進に努めたい。 				

<評価> A:よく達成されている B:ほぼ達成されているが改善も必要 C:不十分である